

プロジェクト 森林資源等を生かした山村の振興

目標

- ・木材生産を除く林業産出額（薪炭生産、栽培きのこ類生産、林野副産物採取）
R2～R4平均：4.6億円 → R10：4.8億円

挑戦する内容

- ・特用林産物の生産振興
- ・うるし等の森林資源の活用促進
- ・里山林に係る地域外関係者受入れのための環境整備

関係者の声
＝対話

- ・青森きくらげを通年で栽培したい（きのこ生産者）
- ・安全かつ品質の高い青森きくらげの種菌生産を行って欲しい（きのこ生産者）
- ・国産漆を安定的に入手したい（津軽塗関係団体）
- ・りんご栽培をやめた園地を有効活用したい（りんご園所有者）
- ・里山林が放置されており、手入れや利活用を進めたい（地域住民）
- ・森林空間を活用して地域外から人を呼び込みたい（市町村等）

役割分担

- ・生産者、地域住民：きのこやうるしの生産、里山林の整備等
- ・県、産技センター：活動支援、普及啓発、きのこ栽培技術開発
- ・種菌メーカー：青森きくらげの種菌生産

変革後の姿

- ・きのこやうるし、薪や木炭などを生かした地場産業が形成されるとともに、地域に根ざした風土や伝統文化、良質な景観が継承
- ・森林空間の総合的な利用などを通じて、地域外の住民との交流が拡大し、地域が活性化

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 特用林産物の生産振興
 - ・きのこ品評会や生産指導の実施
 - ・種菌メーカーによる青森きくらげの種菌生産に向けて、実証試験を実施（県外種菌メーカー3社）
 - ・青森きくらげの栽培・管理マニュアルをもとに、生産者の栽培環境に適した通年栽培の技術指導を実施（随時）
- 2 うるし等の森林資源の活用促進
 - ・うるし林の造成や漆掻きの技術や知識の普及等について、林業普及指導で事業のフォローアップ（随時）
- 3 里山林に係る地域外関係者受入れのための環境整備
 - ・民間企業主導による体験プログラムの実施について、PR等の支援を行う（随時）



青森きくらげの菌床

民間企業による
体験プログラムの商品化

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・青森きくらげ生産者や研究機関、県を構成員とした生産・販売振興会の際に、意見交換の場を設定（年3回）
- ・うるし植栽者や植栽希望者と意見交換を行う（随時）
- ・体験プログラムを商品化する地域企業等と意見交換し、普及拡大（随時）